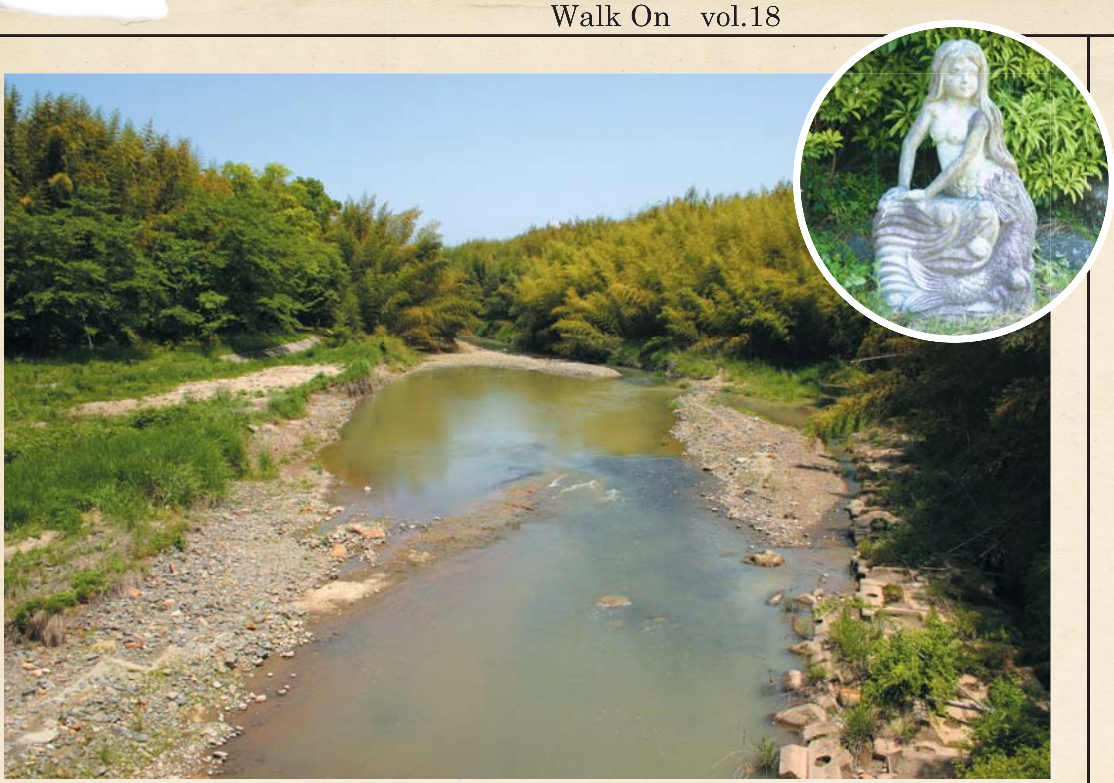

寺村橋（東近江市蒲生寺町）から見た佐久良川上流。このあたりが小姓が淵だろうか。右上の円内は橋のほとりにある人魚園の人魚像。

伝説と歴史の舞台を歩く

小姓が淵（こしょうがふち）

東近江市
DATA
●歩行距離▼約6.5km
●歩行時間▼約2時間

佐久良川の人魚伝説と願成寺のミイラ!?

河童の伝承は日本全国でよく聞かれるが、〝人魚〟となると西洋のアンデルセン童話などをイメージしてしまう。

実は日本にも人魚の伝承は古くからあり、「日本書紀」の推古天皇27年（619年）の条に「蒲生河に物有り。其の形人の如し」という記載がある。この蒲生河は現在の佐久良川である。

東近江市蒲生寺町の佐久良川に架かる寺村橋の上流にあったという小姓が淵には、人魚の言い伝え※がある。

ある年、日照り続きで水不足に困り果てていた村人らは、小姓が淵の水だけはどれだけ使っても常に満杯になっていることに気付く。不思議に思った一人の青年が、夜にこっそり淵を見に行くと、三兄妹の小姓（寺の住職の世話をする少年）が、人か魚か見分けのつかない姿で、尾を使って川底から淵に水を掻い出している光景を目にする。青年はそれを黙っていたが、いつしかその噂は村から村へと広がり、ある夜、心ない男が投網で捕まえてみると、それはなんと人魚だったという。

川合町の願成寺にある人魚のミイラ（非公開）は、小姓が淵で捕えられた人魚の亡骸だともいわれている。

現在、寺村橋のほとりに人魚園が設置され、由来を伝える石碑が立っている。このあたりの佐久良川の両岸は鬱蒼と森林が茂り、伝説にふさわしい風景が今でも残っている。

「人魚伝説」が存在する和歌山県橋本市、新潟県大潟町、福井県小浜市、滋賀県日野町と旧蒲生町（現東近江市）が交流を深めるため、2000年「人魚サミット」が旧蒲生町で開催された。人魚と伝えられるミイラが安置されている願成寺の境内には、サミット開催を記念する人魚像がある。

願成寺（東近江市川合町）

モデルコース

川合バス停 →8分→ 願成寺 →17分→ 京セラ前駅 →25分→ 桜川駅 (※鉄道利用可) 桜川駅 →35分→ 寺村橋・人魚園 →35分→ 桜川駅

※移動時間はあくまでも目安です。

※願成寺／JR近江八幡駅南口から長峰集会所行バスで川合下車、または近江鉄道京セラ前駅下車。

※寺村橋（人魚園）／近江鉄道桜川駅からバスで綺田下車。徒歩約15分。

"Walk on"とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな"近江"という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中！
http://www.keibun.co.jp

※伝承には諸説ありニュアンスが異なります。